

# 論文審査の要旨及び担当者

| 報告番号   | 甲 ㉔ 第 | 号       | 氏名    | 林 公 輔       |
|--|-------|---------|-------|-------------|
| 論文審査担当者  | 主 査   | 精神神経科学  | 三 村 將 |             |
|  | 外科学   | 黒 田 達 夫 | 内科学   | 岡 本 真一郎     |
|  | 泌尿器科学 | 大 家 基 嗣 |       |             |
| 学力確認担当者  | 河上 裕  |         | 審査委員長 | 黒田 達夫       |
|  |       |         | 試問日   | 平成27年 6月15日 |
| (論文審査の要旨)  |       |         |       |             |
| 論文題名 : Discrepancy in Psychological Attitudes Towards Living Donor Liver Transplantation Between Recipients and Donors<br>(生体肝移植に対するレシピエントとドナーの心理的差異)  |       |         |       |             |
| <p>本研究では、生体肝移植を受けたレシピエントおよびドナーの間にある、心理的差異について、質問紙を用いて調査を行った。その結果、レシピエントがドナーの移植に対する心理的態度を十分には理解できていないのに対して、ドナーはレシピエントの心理的態度を十分に理解していることが明らかになった。このような差異を解消するために、精神科的な介入を行うことが、移植医療の質の向上のために必要であると考えられた。</p> <p>審査では、質問紙への回答を得られた群と得られなかった群との間にある背景因子の違いについての解析、比較検討が必要であるとの指摘があった。本研究の対象となった疾患が多岐にわたり、また、レシピエントとドナーの関係についてもいくつかのパターンがある。急性肝不全のように緊急で移植が必要になる場合と、移植になることを以前から理解していた慢性疾患の場合では、移植に対する心理的態度に違いがあることが予測される。また、移植後期間の長短が移植に対する考え方の相違を生む可能性もある。このような背景因子のさまざまな違いが、研究への参加の違いに影響を与えているのではないかという指摘である。この点に関して十分な解析がなされていない点が本研究の限界であること、臨床場面でもレシピエントとドナーの関係の違いによって葛藤に差異があることから、今後の研究課題として重要であるとの回答がなされた。次に、SF-36 (36-item Short-Form Health Survey) の解析は年齢層の違いを考慮して行うべきこと、また対象者の移植後の期間がSF-36の結果に及ぼす影響について検討すべきという指摘があった。先行研究においても、指摘されたような検討が十分にはなされておらず、今後の検討を要すると回答された。レシピエントとドナーの移植に対する意識の違いが明らかにされたが、その背景にある原因についてどのようなことが考えられるかという質問がなされた。レシピエントである父親がドナー候補である息子に強く移植を要請したケースを経験したことなどから、両者の意識に違いがあることは明らかであるが、現時点ではその詳細はまだ不明な点が多く、今後の研究課題としたい旨が回答された。最後に、今後本研究をさらに深めていくにあたり、精神科的な介入を行うことでどのような点で効果が得られるのか、具体的に示すことが望ましいという指摘があった。生体肝移植に関するインフォームドコンセントの段階から精神科医が介入し、前向き研究を行い、効果判定を行っていくことを今後の研究課題としたい旨が回答された。</p> <p>以上、本研究には検討すべき課題を残すものの、生体肝移植を受けたレシピエントとそのドナーの心理的相互作用を直接の研究対象とし、両者の間にある心理的差異を新しい切り口で明らかにした点で有意義な研究であると評価された。</p> |       |         |       |             |